

# 新潟市の自然に育まれる 水辺の野鳥たち



新潟市



## 新潟市の自然環境の特徴

○「里潟、河川、水田をはじめとした水辺環境」や「市域の約4割を占める田園環境」「都市部に隣接する里山」「海岸保安林」があげられるとともに、「人の関わりによって形成された自然環境」であることも大きな特徴です。



### 【里潟ってなんだろう】

潟に対する人々の関わりによって、多様な動植物の生息・生育する豊かな湿地環境が保たれるとともに、人々の暮らしや文化、景観と深く関わり、自然と人が共生する湿地としての潟を、本市では「里潟」と称しています。



## ハクチョウ・オオヒシクイの越冬数は日本一

○大空をハクチョウが飛び交う光景は、本市の冬の風物詩となっています。これは、福島潟、鳥屋野潟、佐潟といった里潟がハクチョウ類やオオヒシクイなどのねぐらとなっているとともに、冬鳥の豊かな採食地でもある田園が広がっているためです。



## つなげよう新潟の命 未来へつなごう新潟の命

田植えをむかえ、生きものが目覚める春  
青葉が映え、あらゆる生命が躍動する夏  
稲穂が輝き、山・海・里の幸を楽しむ秋  
コハクチョウが潟や田んぼを行き交う冬

本市の四季のうつりかわりは、広大な田園や里潟、里山などの風景や、そこに暮らすさまざまな生物の営みとして現れ、私たちはそれを当たり前と感じながら暮らしてきました。

しかし現在、私たちの生活や自然との関わり方が変化する中、気づかないうちに本市の美しい風景や自然の恵みの源となる生物多様性（命のつながり）が失われようとしています。

本市では、田園や里潟、里山などを、ひとつにつなげた生物の生息・生育空間ととらえ、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。



平成 23 年度生物多様性ワークショップで話し合われた意見をもとに作成した「新潟市の将来像」

### 里潟で見られる多くの鳥を観察してみよう

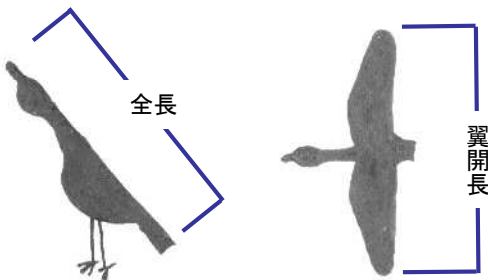
多くの生きものが生息・生育する里潟において、本冊子では冬に見られる鳥を紹介します。

何気なく見ていた鳥も、名前が分かると同じ新潟市で生きる仲間として親近感がわいてきます。

ぜひ、皆さんも鳥を観察しに里潟に遊びにきてください。

## ことばの説明

- 渡り……鳥が季節によって移動すること。
- つがい……繁殖のため一緒になった雄と雌のこと。
- 留鳥……一年中みられる鳥
- 夏鳥……春から初夏に新潟へ渡ってきて繁殖し、秋に再び暖かい南方に帰っていく鳥
- 冬鳥……秋に新潟へ渡ってきて越冬し、春に再び繁殖のため北方に帰っていく鳥
- 繁殖期……つがいが巣をつくり、子育てをする期間
- 成鳥……それ以上成長によって見た目が変化しなくなった、大人の羽根に生え変わっている鳥
- 幼鳥……ひなから成鳥になるまでの鳥
- 夏羽……春から夏にかけて繁殖期にみられる羽。雄では派手なものが多い。
- 冬羽……秋から早春までの非繁殖期にみられる羽。一般に夏羽より地味なものが多いが、カモ類では例外も多い。
- 冠羽……頭にある、長く伸びた羽
- ねぐら……鳥の寝るところ
- 縄張り……それぞれの生活の場を確保するために、他の侵入を許さない区域。テリトリー
- 亜種……同じ種類の生物でも、違う地域に暮らすものは見た目や暮らしが異なり、「亜種」という。さらに細かい分類にわけられることがある。
- 絶滅危惧種……生存している個体数が減少しており、滅びてしまう危険性が高い生物



## バードウォッチング 3つの気配り

周囲への気配りを大切に、やさしい気持ちでバードウォッチングを楽しみましょう。

### 鳥 への気配り

鳥が安心できる距離から  
静かにそっと観察する。  
野鳥の巣には近づかない。

### 自然 への気配り

足元の草花にも気を配る。  
ゴミは各自で持ち帰る。  
タバコや火の始末は厳重に

### 他人 への気配り

他人の迷惑にならないように  
観察者同士での協調も大切



1

## コハクチョウ (カモ目/カモ科)

全長 120cm 翼開長 177cm 冬鳥



雌雄とも全身が白色で、今年生まれの幼鳥は灰色のからだをしています。くちばしの先は黒く、つけ根は黄色。コォー、コォーとやさしく鳴き、隊列を組んで飛翔します。

日中は家族単位で田んぼに出かけ、主に落穂や二番穂、畦の草を食べます。湖沼では水生植物の茎や根などを食べます。

日本に飛来するコハクチョウのうち、4分の1ほどが新潟市で越冬しており、福島潟、鳥屋野潟、佐潟、阿賀野川が代表的なねぐらとなっています。

2

## オオハクチョウ (カモ目/カモ科)

全長 141cm 翼開長 225cm 冬鳥



見た目や生活、鳴き方など、コハクチョウ(p5 上)によく似ています。コハクチョウより大型で、くちばしの黄色い部分が大きくなっています。横からみると、この黄色い部分がくちばしの半分以上にまで達していて、コハクチョウと区別するポイントです。

新潟市での越冬数はコハクチョウより少ないですが、コハクチョウ同様に湖沼や川をねぐらにしています。

3

## ヒシクイ（カモ目／カモ科）

全長 83～100cm 翼開長 160～175cm 冬鳥 準絶滅危惧種



ハクチョウ類よりもひとまわり小さく、雌雄とも茶色っぽい色をしています。黒いくちばしの先端にオレンジ色の帯が入っているのが特徴です。ガハハン、ガハハンと太く低い声で鳴き、隊列を組んで飛翔します。

湖沼と田んぼを行き来し、ヒシの実のほか、ハクチョウ類(p5)と同じようなものを食べます。

新潟に渡来するヒシクイは、大部分がオオヒシクイであり、中でも福島潟はオオヒシクイの日本最大の越冬地です。

国の天然記念物に指定されています。

4

## マガン（カモ目／カモ科）

全長 72cm 翼開長 138cm 冬鳥 準絶滅危惧種



ヒシクイ(p6 上)よりもひとまわり小さく、ピンク色のくちばしと白い額が特徴です。甲高い声でキャハン、キャハンと鳴き、隊列を組んで飛翔します。

湖沼と田んぼを行き来し、ハクチョウ類(p5)と同じようなものを食べます。

雁のなかまは特に警戒心が強い鳥です。群れの多くが頭をもたげている場合は警戒の姿勢ですので、それ以上近づかないようにしましょう。

国の天然記念物に指定されています。

5

## マガモ (カモ目/カモ科)

全長 53~61cm 翼開長 85~99cm 冬鳥



県内では越冬数が最も多いカモのなかまです。

雄はつやのある青緑色の頭と黄色のくちばしが目立ち、首に細い白帯がみられます。雌は全身褐色で黒褐色の斑があります。ゲェッ、ゲェッと鳴きます。湖沼、川などで越冬します。

水面や水中で、水生植物の茎や根、植物の種子や、水生昆虫、タニシなどを食べます。夜になると田んぼに出かけ、落穂や二番穂、畦の草などを食べます。

6

## カルガモ (カモ目/カモ科)

全長 53~63cm 翼開長 83~99cm 留鳥



一年中日本で見られるカモのなかまです。

雌雄とも同じ色で、全身が褐色で、眼の部分に黒い縞模様があります。くちばしは黒く、先端に黄色い部分があります。脚はオレンジ色をしています。ゲェッ、ゲェッと鳴きます。

湖沼、川などに生息し、マガモ (p7 上) と同じようなものを食べます。春から初夏にかけて、ヒナを連れた姿が見られることもあります。



7

## コガモ (カモ目/カモ科)

全長 34~41cm 翼開長 51~64cm 冬鳥



日本のカモのなかまでは最も小さい鳥です。

雄の頭は茶色で、眼のまわりには太い緑色の帯があり、尾の両側に三角の黄色い斑が目立ちます。雌は全身褐色で黒褐色の斑があります。ピリッ、ピリッと鳴きます。

湖沼、川などで越冬し、マガモ (p7 上) と同じようなものを食べます。県内では、ごく普通にみられ、越冬数も多い種です。

8

## トモエガモ (カモ目/カモ科)

全長 38~43cm 翼開長 63~72cm 冬鳥 絶滅危惧Ⅱ類



雄の顔には黒、緑、黄色、白のともえ形の模様があり、名前の由来になっています。雌は全身褐色で黒褐色の斑があり、くちばしの根元には白い斑があります。

湖沼、川などで越冬し、マガモ (p7 上) と同じようなものを食べます。飛来数はそれほど多くありませんが、日本海側に特徴的な種で、渡りの時期には大きな群れが見られる年もあります。

9

## ヒドリガモ (カモ目/カモ科)

全長 43~53cm 翼開長 68~84cm 冬鳥



雄は頭部が赤褐色で額がクリーム色、体は灰色をしています。雌は全身茶褐色で、雄雌とも鉛色で先端が黒色のくちばしをしています。雄はプーンと口笛のような声で鳴きます。

湖沼、川、内湾などで越冬し、マガモ (p7 上) と同じようなものを食べます。他の淡水ガモ類よりも海に出る傾向があり、海草なども食べます。

渡りの時期には大群で見られますが、マガモやコガモ (p8 上) ほど数は多くありません。

10

## オナガガモ (カモ目/カモ科)

全長 53~75cm 翼開長 73~94cm 冬鳥



雄は頭から首にかけてはこげ茶色、胸と腹は白く、体は灰色で、尾は細長くとがっています。雌は全身褐色で、黒褐色の斑があります。プリッ、プリッと鳴きます。

湖沼、川などで越冬し、マガモ (p7 上) と同じようなものを食べます。

渡りの時期には大群で見られますが、マガモやコガモ (p8 上) ほど数は多くありません。

11

## ハシビロガモ (カモ目/カモ科)

全長44~51cm 翼開長72~84cm 冬鳥



平たくて幅の広い、特徴的なくちばしを持つカモのなかまです。

雄の頭部は光沢のある黒色で、胸は白く脇は栗茶色。雌は全身褐色で黒色の斑があり、くちばしは淡橙褐色で雄と同様に幅広です。

湖沼、川などで越冬し、マガモ (p7 上) と同じようなもののほか、くちばしを水面に平行につけ、ちいさな草の種子やプランクトンなどを食べます。

12

## ホシハジロ (カモ目/カモ科)

全長43~48cm 翼開長71~80cm 冬鳥



雄は頭と首が赤褐色で、胸は黒く、体は灰色。赤い眼をしています。雌は全身褐色で、斑点はみられません。

水中によく潜り、魚や貝のほか、水生植物なども食べます。湖沼、川などで越冬します。

13

## ミコアイサ (カモ目/カモ科)

全長 39~44cm 翼開長 61~70cm 冬鳥



雄はほぼ全身がまっ白で、眼のまわりはパンダのように黒く、後頭や背に黒い縞模様があります。雌は褐色で、ほおが白くなっています。

水中によく潜り、魚を主食とします。湖沼、川などで越冬し、市内では特に佐潟でよく観察できます。

14

## カワアイサ (カモ目/カモ科)

全長 60~71cm 翼開長 82~97cm 冬鳥



雄は頭部が緑色で、背は黒く、白いからだが目立ちます。雌の頭部は栗色で逆立っていて、首は白色、からだは灰色をしています。くちばしと脚は赤色。

水中によく潜り、魚を主食とします。湖沼、川、河口などで越冬します。

15

## カイツブリ (カイツブリ目/カイツブリ科)

全長 26cm

翼開長 45cm

留鳥



からだは丸く、足指にはひれがついています。

雌雄とも同じ色をしており、夏と冬で羽の色が変化します。

夏羽はほおの灰褐色が赤褐色になります。ケレケレケレ、ピッ、ピリオンなどと鳴きます。

湖沼、川などに生息します。水中によく潜り、魚を主食とします。水草を積んだ「浮き巣」を水面に作り、繁殖します。

16

## カンムリカイツブリ (カイツブリ目/カイツブリ科)

全長 56cm

翼開長 86cm

冬鳥・留鳥



首がほっそりと長く、白っぽく見えます。

雌雄とも同じ色をしており、夏と冬で羽の色が変化します。

夏羽はほおに橙赤色の飾り羽が目立ちます。

湖沼、川、内湾などで越冬します。水中によく潜り、魚を主食とします。一般的には冬鳥ですが、近年鳥屋野潟などで繁殖が確認されました。

17

## カワウ (カツオドリ目/ウ科)

全長 81cm

翼開長 129cm

留鳥



雌雄とも全身黒色、時期などによっては一部が白くなるものも居ます。背は茶褐色で光沢があります。先の曲がった長いくちばしと長い首をしており、くちばしの付け根が黄色くなっています。

グルルルル…とうなるように鳴き、水中によく潜り、魚を主食とします。

湖沼、川、内湾などに生息し、杭などにとまっていることもあります。木の上に集団で巣をつくります。

18

## オオバン (ツル目/クイナ科)

全長 39cm

翼開長 74cm

留鳥



雌雄ともくちばしと額が白いほかは、全身まっ黒です。眼は赤く、足指にはひれがついています。鳴き声はキョン、キョンと甲高く響きます。

湖沼、川などに生息します。首を前後に振りながら泳ぎ、ときどき潜っては水生植物や水生昆虫などを食べます。岸に上がり、草を食べていることもあります。

佐潟や福島潟では少数ですが毎年のように繁殖しています。

19

## ダイサギ (ペリカン目/サギ科)

全長 89cm

翼開長 130cm

留鳥



シラサギの中で最も大きく、雌雄とも全身白色で、夏には背中にレースのようなかざり羽がつきます。くちばしの色は、冬期には黄色、夏期には黒くなります。

ゴアーッという声で飛びながら鳴くことがあります。水辺をゆっくり歩いて餌を探し、魚のほかザリガニやカエルなどを食べます。

川や湖沼、田んぼなどで見られ、普段は単独で生活しています。ほかのサギ類にまじって集団で繁殖します。

20

## アオサギ (ペリカン目/サギ科)

全長 93cm

翼開長 161cm

留鳥



日本のサギのなかまでは最も大きい鳥です。

雌雄とも背中は灰色、腹の方は白く、夏には後頭部に黒いかざり羽が目立ちます。

飛びながらキャッという高い声を出し、地上ではゴアーという声で鳴きます。水辺をゆっくり歩いて餌を探し、魚のほかザリガニやカエルなどを食べます。

川や湖沼、田んぼなどで見られ、普段は単独で生活しています。杉林や松林などに集団で繁殖します。



21

## オジロワシ (タカ目/タカ科)

全長 80~94cm

翼開長 182~221cm

冬鳥

絶滅危惧Ⅱ種



翼を広げると畳ほどもある、大型のワシのなかま。

全身はほぼ黒褐色で、黄色く大きなくちばし、白い尾をしています。

湖沼や川などで見られ、大型の魚のほか、新潟ではカモなどの鳥類も捕食します。

国の天然記念物に指定されています。

22

## オオタカ (タカ目/タカ科)

全長 50~56cm

翼開長 106~131cm

留鳥

準絶滅危惧種



市内でも繁殖をしているタカのなかま。

背は青灰色で、白っぽいのどから腹にかけては横縞が多数、尾には4本の黒帯があります。幼鳥や若鳥は全身褐色で、腹には縦縞があります。ケツケツケツ、ピョーと鳴きます。

平野部や海岸線の松林などに生息し、冬場は農耕地や市街地、湖沼などでも見られます。カモやハト、小鳥類、ノウサギなどを捕食します。



23

## チュウヒ（タカ目／タカ科）

全長 48～58cm

翼開長 113～137cm

冬鳥

絶滅危惧ⅠB種



ヨシ原を代表するタカのなかま。正面から見るとフクロウのような顔をしています。からだの色は個体差が大きいです。腹から下が茶褐色の模様をよく見かけます。翼をV字に保ち、滑空するのが上手です。

広いヨシ原のある湖沼や川で越冬し、ヨシ原の上を低く飛びながらネズミや小鳥類を捕食します。

24

## ノスリ（タカ目／タカ科）

全長 52～57cm

翼開長 122～137cm

留鳥



背は褐色、腹側は白っぽい色をしています。ずんぐりとした体形で、腹巻のような暗色の模様があります。

冬場は農耕地や林などで見られます。道路脇の電柱にとまりネズミを狙う姿もよく観察されます。

25

## トビ (タカ目/タカ科)

全長 59~69cm

翼開長 157~162cm

留鳥



最も身近なタカのなかま。

全身褐色で、翼の下面に白い紋があります。黒い眼をしています。長い尾はとまっているときはM字に、飛んでいるときは三味線のばちのような三角形に見えます。

ピーヒョロヒョロヒョロと鳴き、湖沼や川、海岸、農耕地などで見られます。動物の死体のほか、ネズミやヘビなど生きている小動物も捕食します。

26

## カワセミ (ブッポウソウ目/カワセミ科)

全長 17cm

翼開長 25cm

留鳥



「飛ぶ宝石」とも呼ばれ、人気のある鳥です。

胸や腹は橙色で、背中が輝く青色。黒く長くちばしを持ちます。雌は下のちばしが赤色をしています。

飛びながらチーッと鳴きます。湖沼や川に生息しています。空中で静止、または木の枝や杭に止まって水中の魚を狙い、ダイビングして捕食します。

27

## タゲリ (チドリ目/チドリ科)

全長 32cm

翼開長 72cm

冬鳥



長い冠羽が特徴です。背は緑色で、金属のような美しい光沢があります。顔は白く、眼の下に黒い模様があります。あごから腹にかけて白く、胸には黒くて太い帯があります。雌雄とも同じ色をしています。

ミューという子猫のような声で鳴きます。群れで行動することが多く、丸みのある翼でふわふわとはばたいて飛翔します。

湖沼や田んぼなどの水辺で見られ、歩きながら地中や水中のミミズや昆虫類を食べます。

28

## タシギ (チドリ目/シギ科)

全長 27cm

翼開長 43cm

冬鳥



頭部や眼の横、背には黄色い縞模様があります。長くまっすぐなくちばしを持っています。雌雄とも同じ色をしています。

飛び立つときに、ジェツというしゃがれた声で鳴きます。

湖沼や田んぼなどの水辺で見られますが、動かないと枯れ草にまぎれ目立ちません。泥の中にくちばしを入れ、上下に動かしながらミミズなどを探して食べます。

29

## アカゲラ (キツキ目/キツキ科)

全長 24cm

翼開長 39cm

留鳥



キツキのなかま。背は黒と白のまだら模様で、下腹部が赤色。雄は後頭部が赤く、雌は黒色をしています。

キョツ、キョツと鳴くほか、縄張り宣言としてドラミング(くちばしで木をつつく)をします。

木の幹に縦にとまり、丈夫で尖ったくちばしで樹皮の下や幹のすきまにいる昆虫などを食べます。

30

## セグロセキレイ (スズメ目/セキレイ科)

全長 21cm

翼開長 30cm

留鳥



名前の通り背が黒く、腹は白色。顔は黒く、眼の上に白い縞模様があります。長い尾を上下に振る動きが特徴的です。ジージー、ジージー、と濁って鳴きます。

湖沼や川などに生息し、水辺を歩きながら昆虫などを食べます。日本固有種です。

31

## カシラダカ (スズメ目/ホオジロ科)

全長 15cm

翼開長 24cm

冬鳥



短い冠羽からこの名がつけました。

スズメに似ていますが、冬は雌雄とも頭とほおが褐色で、腹は白く、胸から脇にかけて褐色の模様があります。

チツ、チツと細く鳴き、春になると美しいさえずりが聞かれることがあります。

松林や農耕地、草むらなどで見られ、主に草の実を食べます。

32

## オオジュリン (スズメ目/ホオジロ科)

全長 16cm

翼開長 25cm

冬鳥



全体的に褐色ですが、眼の横とほお、腹は白っぽい色をしています。チツ、チツ、チュリーンなどと鳴きます。

湖沼や川のヨシ原で見られます。ヨシに縦にとまり、茎をめくって虫などを食べます。

## 里潟でバードウォッチング

新潟市に点在する湖沼は水鳥の宝庫であり、周辺のヨシ原や林では小鳥たちが羽を休めます。

以下に紹介する3潟では、探鳥会の開催や観察施設もありますので、初心者の方も気軽に利用してみてください。

**福島潟（新潟市北区）** 面積 **271ha** 国指定鳥獣保護区



新潟市最大の潟。オオヒシクイの日本最大の越冬地。

複雑に入り組んだヨシ原は野鳥たちの大切な隠れがとなっている。

野鳥観察舎：雁晴れ舎（がんばれしゃ）

観察施設：水の駅「ビュー福島潟」 TEL 025-387-1491

特徴的な鳥：オオヒシクイ（p6）

**鳥屋野潟（新潟市中央区）** 面積 約 **180ha** 県指定鳥獣保護区



新潟駅から約 2～3km という街中にありながら、数千羽の白鳥とカモ類が越冬する。

公園の林では小鳥類なども観察できる。

野鳥観察舎：鳥観庵（とりみあん）

特徴的な鳥：カンムリカイツブリ（p12）

**佐潟（新潟市西区）** 面積 **76ha** 国指定鳥獣保護区



市内唯一のラムサール条約湿地。

湖水は湧き水で凍りにくく、雪も比較的少ないため、厳冬期には多くの野鳥が集まる。

野鳥観察舎：潟見鳥（かたみどり）

観察施設：佐潟水鳥・湿地センター TEL 025-264-3050

特徴的な鳥：ミコアイサ（p11）

## ハードウォッチングの整理

年 月 日

場所 \_\_\_\_\_

番号	種類	確認
1	ヒシクイ	
2	マガン	
3	コハクチョウ	
4	オオハクチョウ	
5	オカヨシガモ	
6	ヨシガモ	
7	ヒドリガモ	
8	マガモ	
9	カルガモ	
10	ハシビロガモ	
11	オナガガモ	
12	トモエガモ	
13	コガモ	
14	ホシハジロ	
15	キンクロハジロ	
16	ミコアイサ	
17	カワアイサ	
18	カイツブリ	
19	カンムリカイツブリ	
20	ハジロカイツブリ	
21	キジバト	
22	カワウ	
23	アオサギ	
24	ダイサギ	
25	コサギ	
26	オオバン	
27	タゲリ	
28	タシギ	
29	ユリカモメ	
30	ウミネコ	

番号	種類	確認
31	カモメ	
32	ミサゴ	
33	トビ	
34	オジロワシ	
35	チュウヒ	
36	オオタカ	
37	ノスリ	
38	カワセミ	
39	コゲラ	
40	アカゲラ	
41	ハヤブサ	
42	モズ	
43	ハシボソガラス	
44	ハシブトガラス	
45	シジュウカラ	
46	ヒヨドリ	
47	ウグイス	
48	エナガ	
49	ムクドリ	
50	シロハラ	
51	ツグミ	
52	ジョウビタキ	
53	スズメ	
54	ハクセキレイ	
55	セグロセキレイ	
56	アトリ	
57	ホオジロ	
58	カシラダカ	
59	アオジ	
60	オオジュリン	

確認された野鳥の種類 \_\_\_\_\_ 種類

メモ

確認された鳥は、該当する鳥の種類の確認欄に○印を記入してください。





ハクガン



シジュウカラガン

協 力 にいがた野鳥の会  
水の駅「ビュー福島潟」  
佐潟水鳥・湿地センター  
発 行 新潟市環境部環境政策課  
TEL025-228-1000(代)